

大分県長期漁海況予報

〔令和5(2023)年1月～6月までの海水温・漁模様の見通し〕



大分県農林水産研究指導センター水産研究部
879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

Phone 0972-32-2155 Fax. 0972-32-2156 <http://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>

海況経過<令和4年8月～令和4年12月>

■黒潮

- ・都井岬沖では、9月まで離岸傾向、その後は概ね接岸傾向で推移しました。
- ・足摺岬沖では、8月は「著しく離岸」、9月下旬～11月は「かなり離岸」で推移しました。
- ・A型流路(大蛇行)が継続しました。

■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は、8月、9月は「平年並」、10月以降は「やや高め」と、高め基調で推移しました。(図1)。

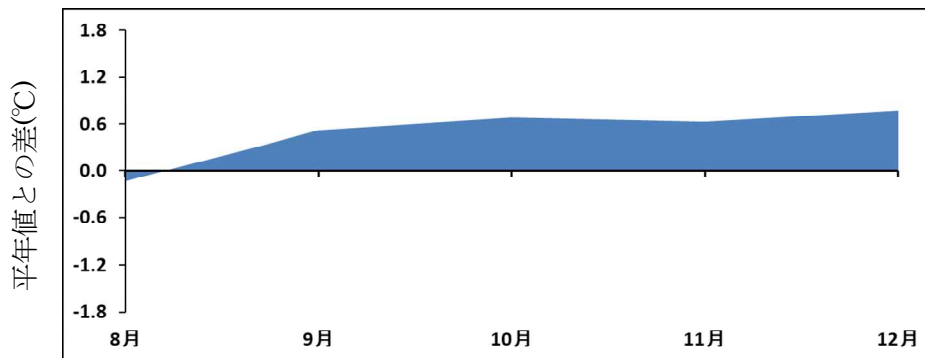


図1 豊後水道における水温の平年値との差(0～75m層の平均値)

■塩分

豊後水道の塩分(0～75m層)は、8月～11月は「平年並」、12月は「やや低め」と、低め基調で推移しました(図2)。

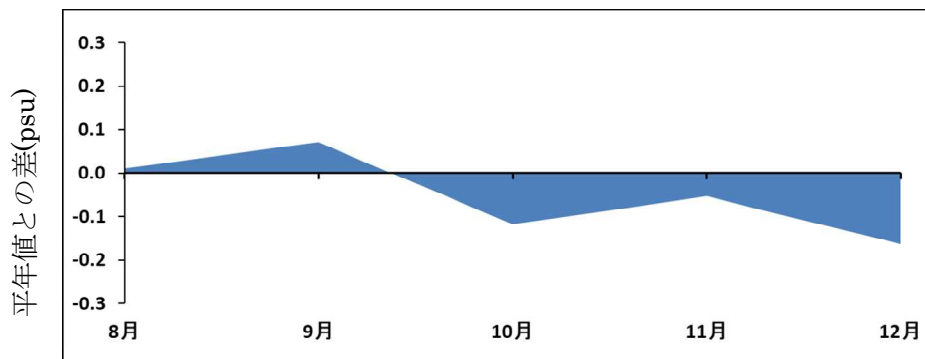


図2 豊後水道における塩分の平年値との差(0～75m層の平均値)

今後の海況の見通しく令和5年1月～6月

■黒潮

- ・都井岬～足摺岬沖では、接岸傾向で推移し、一時的に離岸することがあるでしょう。
- ・黒潮はA型基調で推移し、大蛇行が継続する可能性が高いでしょう。

■沿岸水温

沿岸水温は「低め」～「平年並」で推移し、暖水波及時には「高め」で推移するでしょう。

■予測の説明と根拠

- ・黒潮流路予測は、2022年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報(国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所および関係都道府県:2022)を参考にしました。
- ・沿岸水温は、2022年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報と、福岡管区気象台の「九州北部地方3ヶ月予報」(令和4年12月20日発表)を参考にしました(沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられているため)。

- 1月 「低め40%、平年並40%、高め20%」
- 2月 「低め40%、平年並30%、高め30%」
- 3月 「低め30%、平年並40%、高め30%」

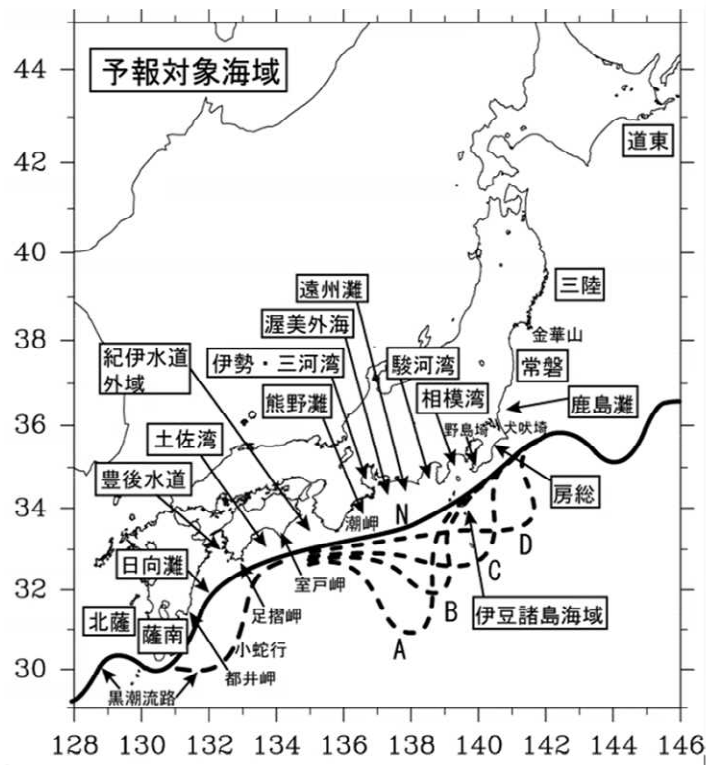


図3 黒潮流型の分類

※上図は太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報
(水産研究・教育機構プレスリリース資料)より引用

■マイワシ

□2022年7月～11月の漁況経過

2022年7月～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの水揚量は21トンで、前年比 2%、平年比 1% (1986年～2021年の平年値)と、前年・平年を大きく下回りました。水揚の主体は2022年級群(0歳魚)であり、2021年級群(1歳魚)の個体も確認されました。

なお、近隣海域^(用語解説①)では、宮崎県は前年の 1%、愛媛県は前年の86%、高知県は前年の 0%の水揚量となっています(各県、7月～11月の前年比)。

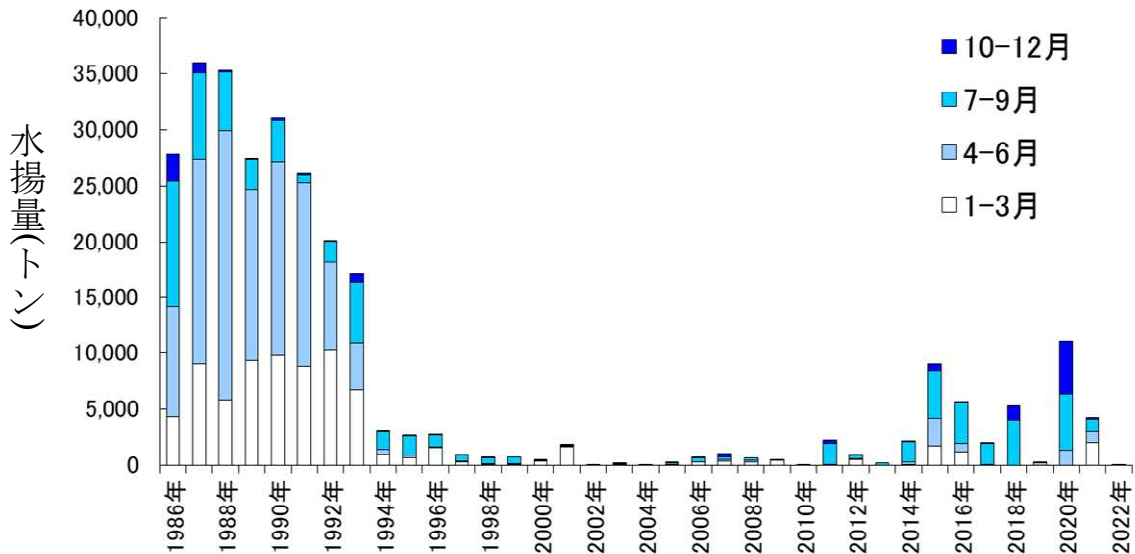


図4 まき網によるマイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2023年1月～6月>



来遊量:

豊後水道南部への来遊量は、低水準であった前年並でしょう。(2022年1月～6月:1 トン)

水揚対象年級群および体長:

1月～3月は被鱗体長^(用語解説②)15cm～20cm前後の1～2歳魚(2021～2022年級群)が主体となり、4月～6月は被鱗体長7cm～12cm前後の0歳魚(2023年級群)主体となるでしょう。

【説明】

マイワシ太平洋系群は東北・北海道東部沖の沖合回遊群を中心に資源が増加傾向にありますが、予測期間中の本県への来遊は海況条件に左右される可能性が高いことが予想されます。したがって、2023年1月～6月の来遊水準は低水準であった前年並と予測しました。

■カタクチイワシ(成魚)

□2022年7月～11月の漁況経過

2022年7月～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの水揚量は157トンで、前年比33%、平年比12%(1986年～2021年の平均値)と、前年・平年を下回りました。水揚の主体は、被鱗体長5.0cm～11.0cm前後の2022年級群(0歳魚)と2021年級群(1歳魚)でした。

なお、宮崎県では前年の37%、愛媛県では前年の74%、高知県では前年の108%の水揚量となっています(各県、7月～11月の前年比)。

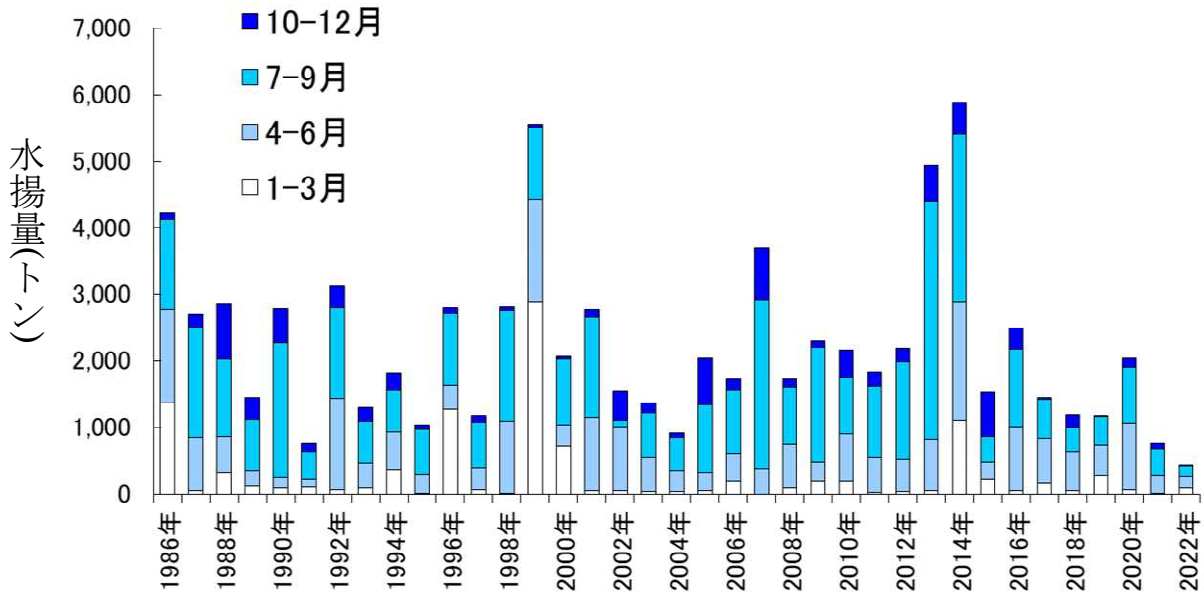


図5 まき網によるカタクチイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2023年1月～6月>



来遊量:

豊後水道南部への来遊量は、前年並～下回るでしょう。(2022年1月～6月:273 トン)

水揚対象年級群および体長:

1月～6月は0～1歳魚(2022～2023年級群)が水揚げの主体となるでしょう。

【説明】

2022年は2023年に漁獲の主体となる2022年級群(1歳魚)の水揚量が前年を下回りました。4月以降に水揚げされる2023年級群(0歳魚)について、現段階では来遊水準の予測が困難ですが、カタクチイワシ太平洋系群の資源状態は近年低調であることから、2023年1月～6月の来遊水準は低水準であった前年並～下回ると予測しました。

■ウルメイワシ

□2022年7月～11月の漁況経過

2022年7月～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの水揚量は1,877トンで、前年比53%、平年比189%(1986年～2021年の平均値)と、前年を下回り、平年を上回りました。水揚の主体は被鱗体長6.0cm～17.0cm前後の2022年級群(0歳魚)であり、これに加えて17.0cm～21.5cm前後の2021年級群(1歳魚)もみられました。

なお、宮崎県では前年の59%、愛媛県では前年の18%、高知県では前年の97%の水揚量となっています。(各県、7月～11月の前年比)。

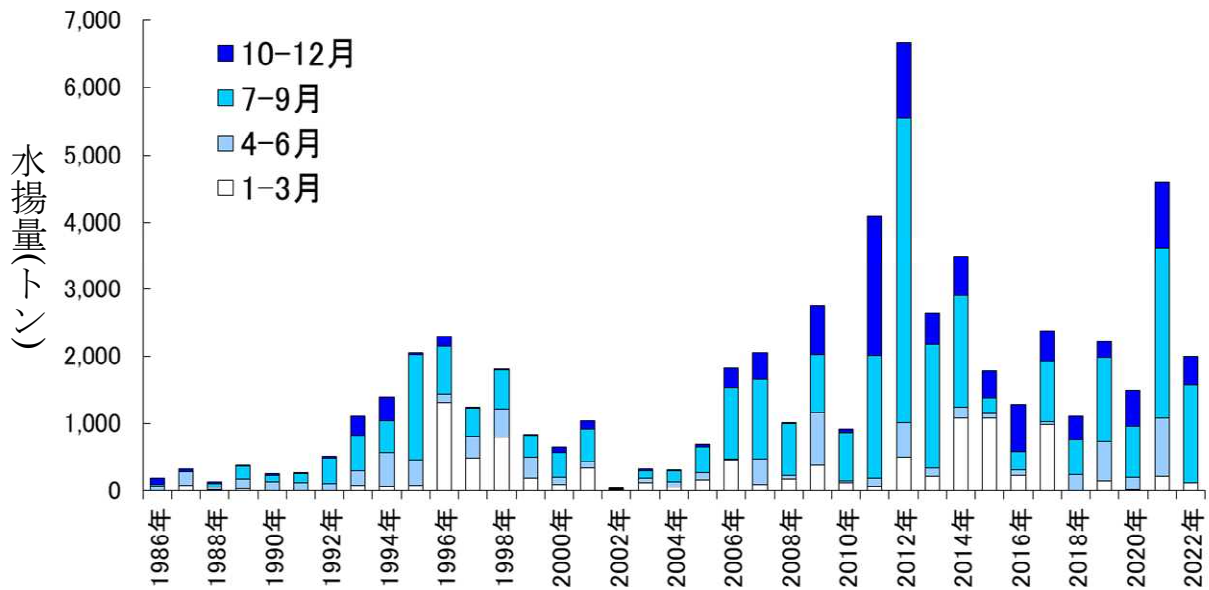


図6 まき網によるウルメイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2023年1月～6月>



来遊量:

豊後水道南部への来遊量は前年並～下回るでしょう。(2022年1月～6月:123 トン)

水揚対象年級群および体長:

1月～3月は被鱗体長15.0cm～20.0cm前後の2022年級群(1歳魚)が主体となり、4月～6月は被鱗体長10.0cm前後の2023年級群(0歳魚)が水揚げの主体となるでしょう。

【説明】

2022年7月～11月の水揚げの主体は2022年級群(0歳魚)であり、2023年はこれらの個体が1歳魚となり漁獲される可能性があります。2022年級群が水揚げの主体であった2022年7月～11月のまき網水揚量が前年を下回ったため、2023年1月～6月の漁獲量は前年並～下回ると予測しました。

■マアジ

□2022年7月～11月の漁況経過

2022年7月～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの水揚量は230トンで、前年比34%、平年比17%(1986年～2021年の平均値)と前年・平年を下回りました。尾叉長^(用語解説③)10.0cm～20.0cm前後の0～1歳魚(2021～2022年級群)が主体となり、尾叉長20.0cm～25.0cm前後の2歳魚(2020年級群)も水揚げされました。

なお、宮崎県では前年の375%、愛媛県では前年の70%、高知県では銘柄「あじ」が前年の94%で、銘柄「ぜんご」が前年の27%の水揚量となっています。(各県、7月～11月の前年比)。

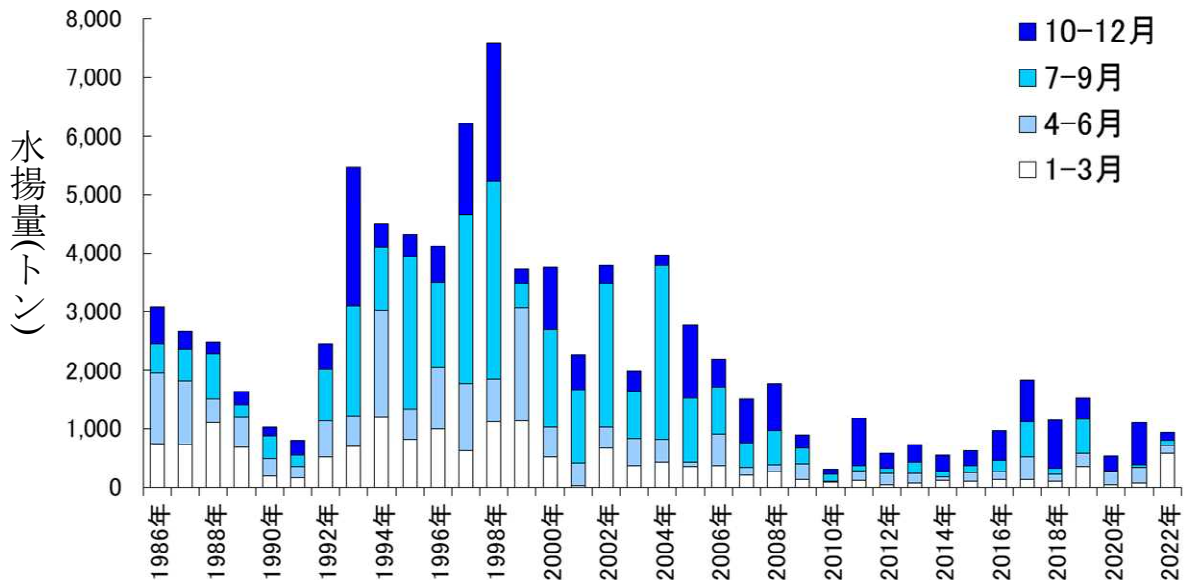


図8 まき網によるマアジの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2023年1月～6月>



来遊量:

豊後水道南部への来遊量は前年並～下回るでしょう。(2022年1月～6月:714 トン)

水揚対象年級群及び体長:

尾叉長14.0cm前後の2022年級群(1歳魚)が主体となり、尾叉長20.0cm以上の個体が混じるでしょう。

【説明】

2022年7月～11月の水揚げの主体は2022年級群(0歳魚)であり、2023年はこれらの個体が1歳魚となり漁獲されるでしょう。マアジ太平洋系群の資源量は低水準で推移しており、2022年級群が水揚げの主体であった2022年7月～11月のまき網水揚量が前年を下回ったことから、来遊水準は、低水準であった前年並～下回ると予測しました。

■サバ類

□2022年7月～11月の漁況経過

2022年7月～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるサバ類の水揚量は213トンで、前年比54%、平年比 9% (1986年～2021年の平均値)と、前年・平年を下回りました。水揚の主体は、尾叉長10.0cm～28.0cm前後の2021～2022年級群(0～1歳魚)でした。

なお、宮崎県では前年の207%、愛媛県では前年の104%、高知県では前年の160%の水揚量となっています。(各県、7月～11月の前年比)。

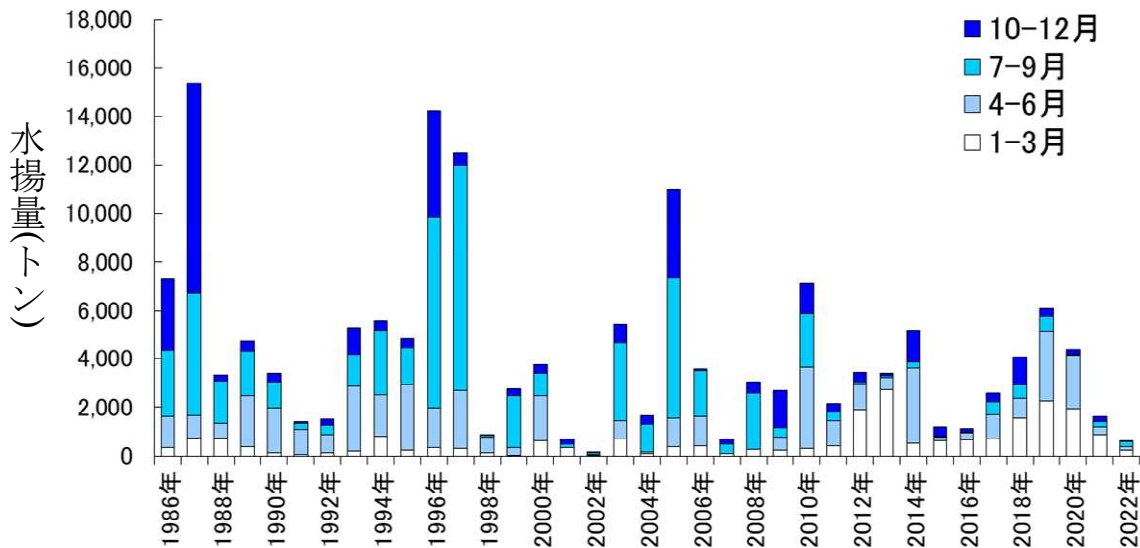


図9 まき網によるサバ類(マサバ・ゴマサバ)水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2023年1月～6月>



来遊量:

豊後水道南部への来遊量は、低水準であった前年並でしょう。(2022年1～6月:400 トン)

水揚対象年級群および体長:

1月～3月は尾叉長25.0cm～35.0cm前後のマサバ2歳魚、3歳魚以上が主体となり、4月以降はゴマサバも混獲されるでしょう。

【説明】

予測期間中は、30cm以上のマサバ2021年級群(2歳魚)以上が水揚げの主体となり、4月以降はゴマサバも混獲されるでしょう。2022年7月～11月の水揚量は、2021～2022年級群(0～1歳魚)が主体で前年、平年と比較してきわめて低調でした。ゴマサバ太平洋系群は資源状態が悪く、来遊に期待がもてません。マサバ太平洋系群は資源が増加傾向にありますが、予測期間中の本県への来遊は海況条件に左右される可能性が高いことが予想されます。現在、常磐沖の黒潮続流が北偏している影響で魚群の南下が遅れており、1月以降も継続する見込みであることを考慮し、2023年1月～6月の来遊水準は低水準であった前年並と予測しました。

その他

■予測の根拠および参考資料

・予測は、国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所および関係都道府県による、「2022年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報会議」結果を基に、最新の情報を加味して行っています。

URL: <https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2022/index.html>

■用語解説

①近隣海域：ここでは3県（宮崎県・愛媛県・高知県）の海域とし、高知県の水揚量の前年比は、宿毛湾における中型まき網によるものとししました。

②被鱗体長：体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。

③尾叉長：体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央（くびれている部分）までの直線距離。

■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部 資源増殖チームまで。

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

電話:0972-32-2155

FAX:0972-32-2156